

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495300204		
法人名	有限会社福祉サポート仙台東		
事業所名	グループホーム憩いの園		
所在地	仙台市若林区上飯田1丁目3番31号		
自己評価作成日	平成27年11月21日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/04/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	平成27年12月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所に隣接している保育園は、法人設立時からお付き合いをさせていただいており、年間行事の夏祭りや芋煮会等では毎年お互いに招待しあい、交流を図っております。
また、地域の婦人会とも交流があり、敬老会・クリスマス会等にはボランティアとして余興で唄や踊りを披露させていただいております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成27年4月開設の「憩いの園」は、広瀬川に近い住宅街の一角にある。居宅介護支援・訪問介護事業所を併設し、敷地内に同法人運営の住宅型有料老人ホームや調理室がある。法人代表は民生委員等を担い地域の状況や情報を把握し、地域活動に積極的に携わっている。開設時に、全職員で話し合い、理念「笑顔があふれる家、あなたがあなたらしく過ごせる家、安心できるひだまりのような家」を作った。利用者は皆で歌を唄い、昼食後、それぞれが寛げる場所で穏やかに過ごしていた。隣接する保育園とは、ホームの夏祭りや園の焼き芋会などで交流がある。園児にハグされた利用者の笑顔写真から、保育士や職員の日頃の関わりや、お互いの優しさ、思いやりが感じられた。これらの様子から、職員は理念を実践につなげていることがうかがえた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果（事業所名 グループホーム憩いの園）「ユニット名 1階」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月のミーティングで全員で読み上げ、理念の確認・共有を行っています。	全職員で作成した理念をミーティングで確認している。職員は「利用者は家族と同じ」という思いで接している。利用者の思いに寄り添い、自分らしく過ごし、興味あることができるように支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人で開催している夏祭り等に近隣の保育園や婦人会、地域住民の方に参加していただいております。	町内会に加入し、盆踊りやお茶っこ会、防災訓練などの地域行事の情報がある。法人主催の夏祭りに保育園児や地域住民の参加でスイカ割りなどを楽しんだ。敬老会やクリスマス会に歌や踊り、手品などのボランティアが訪れ交流している。職場体験として高校生を受け入れた。	「ホームの情報紙」などを作成し、地域にホームの取り組みをアピールし、さらに地域の協力が得られることを期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月のミーティングにて認知症についての勉強会を行い、また、認知症サポーター講座を地域包括支援センターに依頼し、全職員対象に行いました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域での活動の報告を聞き、今後の課題を挙げていただき、その課題において事業所はどう貢献できるかを話し合っております。	3地区の町内会長、町内会役員、民生委員、地域包括職員、家族、法人代表等の参加で奇数月第4金曜日に開催している。利用者の状況や事故、行事を報告し、地域活動や豪雨対策などの意見や要望を情報交換し、運営に活かされる有意義な会議となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	サービスを提供する上での疑問や不明な点についてはその都度相談しアドバイスをいただいております。	市の担当者に運営での疑問点や成年後見人などについて助言を得て、運営に活かしている。必要な事故報告などを行っている。地域包括支援センターから利用者の受け入れについて相談されるなど協力連携している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所での研修会において身体拘束について、具体的な11の項目・3つの弊害について理解を深められるよう努めております。今後も定期的に研修会を行っていく予定です。	身体拘束や虐待について事例を含めて研修した。外出傾向を把握し、気持ちに寄り添い同行、近所の美容室に協力を依頼している。安全対策のためにエレベーターにセンサーを設置した。転倒防止のために家族の同意を得て、センサーや毛布に鈴をつけている方もいる。職員はセンサー受信機を携帯し、即対応出来るように備えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所での研修会において高齢者虐待の主な種類の理解、また、介護者のストレスが虐待につながる大きな影響ということへの理解を深められるよう努めております。今後も定期的に研修会を行っていく予定です。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている方もおりますので研修やミーティングを通じ、学ぶ機会を持つようにし、理解に努めております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては主に管理者が行っており、不安点・疑問点も解消でき、ご理解いただけるよう努めております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様からは日々の会話の中から要望を吸い上げられるように、ご家族へは面会時に様子を伝え、同様に要望を反映できるよう努めております。	利用者の要望などは日々の暮らしの中で把握し職員間で共有している。家族の意見や要望は訪問時に聞き記録し、ミーティングで確認・検討している。事例として食事について意見があり検討し、家族に説明を行った。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からは日々の業務を行う中で気づいた意見・提案を聞き、取り入れるよう努めております。また、今後は管理者より職員の個人面談も取り入れていきたいと思っております。	毎月の全体会議やリーダー会議、日常的に意見や要望が出せる機会がある。業務内容や手順などについて意見が出され、実践し改善につなげた。勤務シフトや希望休を聞き、働きやすい環境作りに配慮している。外部研修に参加する機会を確保しケアの質の向上に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	職務資格等級により職層や職責、手当等を明示し、目標を持って働ける整備を行っております。又、誕生日は休みにし、希望休にも応え、メリハリを持って仕事に打ち込める環境作りに取り組んでおります。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入社員研修、スキルアップ研修を行い知識・技術のスキルアップに取り組んでおります。又、外部の研修にも参加する機会を設け、職員の育成に努めております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の他事業所が開催する勉強会に参加し、情報交換を行い、サービスの質の向上に取り組んでおります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には実態調査を行い、ご本人や家族、関係各所からの情報提供をしていただいております。また、ご本人の普段の生活の中からの言葉から不安や要望をくみ取れるよう努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談受付時にご家族の困りごと・不安を聞き、事業所での対応と一緒に検討しております。また、サービス担当者会議や面会時の会話を通して要望を聞き、良い関係づくりに努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	それまで利用していた医療機関や担当のケアマネジャーからの意見を聞き入れ、必要な支援を理解しサービスにつなげるよう努めております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族同様の接し方で、その人らしさを引き出せるよう努めております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会時にはご利用者様の日々の様子を伝えております。情報交換をし、協力してご本人を支えられるよう努めております。また、今後はホームの様子等の広報誌を定期的に送付できればと考えております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでの関係が途切れないよう、ご本人が今まで関わってきた医療機関、理髪店、地域の商店を把握し、ご家族と協力するとともに、外出支援等の支援を行っております。	家族と連携し医療機関や理・美容院、地域のスーパーやコンビニに出掛けられるように支援している。同法人のデイサービスの知人と行事の際に交流を深めている方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご本人のペースに合わせておりますが、お茶の時間などはフロアで職員や他利用者様と一緒に過ごす時間も確保できるよう配慮しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了の際は今後もお困りごとがありましたらいつでも相談できる旨をお伝えしております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各職員がご利用者様とのコミュニケーションを通して意向に沿えるよう支援しております。また、毎月のミーティングで個人のケアカンファレンスを行っております。	日頃の会話から思いや意向を把握、また、家族や地域包括から情報を得て記録、全体会議で情報共有する。利用者のこだわりや好みに配慮し、一人ひとりの思いに添って、安心して暮らせるように支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族、関係機関の方から情報を頂き、把握に努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	居室担当者が中心となり、現状の把握に努めており、また、ミーティング・申し送り等で情報の共有を図っております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	居室担当者を中心にご利用者のケアについて聞き取り、計画作成担当が立てた計画を担当者会議にてご本人・ご家族の意向に沿っているか確認しております。	生活に対する意向欄に本人が話した言葉を記録し、家族、医師、職員の意見を取り入れ介護計画を作成している。3ヶ月毎、または必要に応じてモニタリング、ケアカンファレンスを行い、本人、家族、関係者の参加でサービス担当者会議を開催し、介護計画を見直し、説明、同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は個別に記録しており、職員はそれを見ることで情報の共有をしております。また、申し送りやミーティング時などにケアについて話し合い、計画作成につなげられるよう努めております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現状ご本人に必要なサービスは何なのか、心身の変化や状況に合わせた柔軟なサービスが提供できるよう努めております。カンファレンス等で定期的に見直しを行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の商店や施設を利用できるよう努めており、町内会の行事にはなるべく参加していきたいと思います。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にはご本人が今までかかっていた主治医に継続して診ていただけることを優先に考えます。その際に、ご家族と通院・往診について相談してこちらでできる支援について説明させていただいております。	希望するかかりつけ医や専門医の受診には、基本的に家族が付添うが職員が対応することもある。家族にバイタル表と状態の記録を渡し、受診結果を共有している。月2回、訪問診療や訪問歯科を利用している方もいる。法人の看護師から意見や助言を得ているが、今後、訪問看護ステーションとの連携を検討している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人の他事業所に看護師がおりますので、意見・指示を仰いでおります。また、ご利用者の体調の変化の際は、主治医と連絡をとっております。今後は訪問看護との連携も考えております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院の際は、医療機関と密に連絡をとり、ご利用者様にとって不安なくスムーズに対処できるよう努めております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現時点ではそういったケースはありませんが、終末期のあり方についてはご家族と深く話し合い、事業所としてどう支援できるかを理解していただけるよう努めたいと思います。	臨床宗教師を講師に迎え「人生の終わり方について」と題して職員研修を行った。重度化や終末期に向けた対応指針については、法人の指針を参考に今後作成する予定である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルがありそれに沿うように対応いたしますが、訓練は一部職員しかできておらず今後は全職員が参加できるように訓練・研修を行えるようにしていきたいと思っております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練は年2回行っております。運営推進会議にて災害時の協力について話し合っておりますが、今後はもっと具体的な協力体制を築けるようにしていきたいと思っております。	3月に消防署員や警備会社職員立会いで避難訓練を行った。10月に警備会社職員の立会いで利用者と一緒に夜間想定訓練を行い、声掛けや煙対策について確認した。利用者を避難誘導した目印として枕などを扉の前に置いた。発電機やラジオ、3日分の非常食を準備している。喫煙場所を管理している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修で、高齢者の尊厳・プライバシーの保護について行っております。また、日々の話し合いの中でも職員に対する指導を心掛けております。	利用者の尊厳を尊重すること、利用者の立場に立って行動すること、人生の先輩であるという気持ちで接することなどを念頭に、声掛けなどについて演習を含め研修した。呼び名は家族に確認している。排泄介助はさりげなく対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中でのコミュニケーションでご利用者の意向を聞き取り、できる限り自己決定できるように努めております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度のホームでの日程は決めておりますが、利用者本位・ご本人のペースに合わせてられるよう食事・入浴等の時間を確認しながら行っております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴後の衣服や外出時の衣服はご利用者様と一緒に選べるよう支援しております。ご自身で選択が難しい方には本人本位に沿うように心がけております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	各ご利用者様の残存能力に合わせた食事準備・片づけの支援を行っております。食器拭きやテーブル拭き等の役割を持つことで共同生活をする一員という意識を持っていただけるよう支援しております。	敷地内の法人調理室で作られた食事が届けられる。利用者は出来る範囲で盛りつけや後片付けを行い、和やかに食事し、職員は食事介助をしている。行事食やおやつ作りの際に、利用者と一緒に買い物に行き、調理することもある。法人は職員がケアに専念し、休憩時間を確保できるように配慮し、食事を利用者と共にしていない。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量は記録に記入し、ご本人に合わせた摂取量を確保できるよう支援しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けをしております。介助が必要な方には職員がつき、ご本人の能力に合わせた支援を行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の訴えがない利用者様に対しては定時での声掛け誘導を行っております。排泄は記録に記入し、排泄パターンをケアに活かせるよう努めております。	排泄チェックを行い、排泄パターンなどを把握し、一人ひとりに合わせた排泄を支援している。夜間にポータブルトイレを利用する方もいる。便秘予防に朝の体操やサイクルマシンの活用、乳製品やセンナ茶を取り入れている。医師や薬剤師にも相談している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ご利用者様には体操等を通して運動の促しを行っております。また、飲食物も便秘に効果のあるものをご利用者様の体調に配慮しながら摂取していただいております。主治医・ご家族とも相談し、便秘薬の処方をしていただくこともあります。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間は夜間を除く、午前・午後となっております。入浴時にはご利用者様の意向に沿えるようご本人と話しながら決めております。	週2～3回、午前・午後に入浴支援を行っている。車椅子や状態に応じて、機械浴や職員が2人で対応している。安眠できるように足浴を行う場合もある。入浴したがない場合には、時間をおいたり、声掛けを工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間についてはご利用者様のペースに合わせております。眠れないご利用者様には蒸しタオルを用意し安眠できるようケアしております。主治医と相談して眠剤処方していただくこともあります。昼寝については昼夜逆転にならぬよう声掛け支援しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報のファイルを作成し、各ご利用者ごとに閉じてあります。その情報を見ながら服薬のセットをし、症状の変化等が見られたら主治医に連絡を取り指示を仰いでおります。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人やご家族から情報を聞き、園芸や手芸等ご本人が今まで行ってきた趣味などを取り入れるようにしております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日など外出の機会はなるべく作るよう努めております。また、ご本人の希望に沿えるよう普段の会話から聞き取れるような会話支援をしております。	日常的には、ごみ出しや散歩、調理室への容器返却などが外気浴の機会となっている。市民センター祭りで、踊りや民謡・合唱、小学生の吹奏楽などを楽しんだ。花見、笹かま館の七夕、近所の神社や障がい者施設のバザーなどに出掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	1階では金銭管理をご自身でされている方はおりませんが、希望や能力に応じて支援していきたいと思っております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在は電話等を利用されている方はおりません。利用希望があれば支援させていただきます。手紙も同様にご利用者様の意向に沿う支援をしております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアにはご利用者様とレクで一緒に作った制作物(季節に応じた)を貼り、廊下にはコルクボードがあり、散歩や行事で撮影した写真を飾り思い出を共有できるよう考慮しております。	共用空間は広く、明るく、一角に多目的カウンターがある。ベランダには洗濯物が干されていた。ソファで寛ぐ方、新聞を読む方などがおり、思い思いに過ごせるように配慮している。利用者と一緒に作った季節の飾り(クリスマス)や行事の写真などが壁面に貼られている。手作りカレンダーがあり、トイレ表示は大きく見やすい。加湿付空気清浄機が設置され、湿・温度が適切に管理されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用フロアには仕切り等はありませんが、テーブル席とは別にソファを用意し、くつろげる空間になるよう配慮しております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にはご家族に自宅で使っていた家具や思い出の写真等お持ちいただくことで安心して生活できる空間作りのご相談をさせていただきます。	居室にはベッド、洗面台、収納庫、ナースコールが設置されている。整理ダンス、テレビ、仏壇、家族の写真などを持込み、安心して暮らせるように配慮している。転倒防止のためにセンサーを設置している方もおり、動線に配慮している。出来る利用者と一緒に掃除を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレには看板を設置し、居室にはご自身にわかりやすいよう表札を付け、お一人でもできる(わかる)よう工夫しております。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495300204		
法人名	有限会社福祉サポート仙台東		
事業所名	グループホーム憩いの園		
所在地	仙台市若林区上飯田1丁目3番31号		
自己評価作成日	平成27年11月21日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/04/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	平成27年12月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所に隣接している保育園は、法人設立時からお付き合いをさせていただいており、年間行事の夏祭りや芋煮会等では毎年お互いに招待しあい、交流を図っております。また、地域の婦人会とも交流があり、敬老会・クリスマス会等にはボランティアとして余興で唄や踊りを披露させていただいております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成27年4月開設の「憩いの園」は、広瀬川に近い住宅街の一角にある。居宅介護支援・訪問介護事業所を併設し、敷地内に同法人運営の住宅型有料老人ホームや調理室がある。法人代表は民生委員等を担い地域の状況や情報を把握し、地域活動に積極的に携わっている。開設時に、全職員で話し合い、理念「笑顔があふれる家、あなたがあなたらしく過ごせる家、安心できるひだまりのような家」を作った。利用者は皆で歌を唄い、昼食後、それぞれが寛げる場所で穏やかに過ごしていた。隣接する保育園とは、ホームの夏祭りや園の焼き芋会などで交流がある。園児にハグされた利用者の笑顔写真から、保育士や職員の日頃の関わりや、お互いの優しさ、思いやりが感じられた。これらの様子から、職員は理念を実践につなげていることがうかがえた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果（事業所名 グループホーム憩いの園）「ユニット名 2階」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月のミーティングで全員で読み上げ、理念の確認・共有を行っています。	全職員で作成した理念をミーティングで確認している。職員は「利用者は家族と同じ」という思いで接している。利用者の思いに寄り添い、自分らしく過ごし、興味あることができるように支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人で開催している夏祭り等に近隣の保育園や婦人会、地域住民の方に参加していただいております。	町内会に加入し、盆踊りやお茶っこ会、防災訓練などの地域行事の情報がある。法人主催の夏祭りに保育園児や地域住民の参加でスイカ割りなどを楽しんだ。敬老会やクリスマス会に歌や踊り、手品などのボランティアが訪れ交流している。職場体験として高校生を受け入れた。	「ホームの情報紙」などを作成し、地域にホームの取り組みをアピールし、さらに地域の協力が得られることを期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月のミーティングにて認知症についての勉強会を行い、また、認知症サポーター講座を地域包括支援センターに依頼し、全職員対象に行いました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域での活動の報告を聞き、今後の課題を挙げていただき、その課題において事業所はどう貢献できるかを話し合っております。	3地区の町内会長、町内会役員、民生委員、地域包括職員、家族、法人代表等の参加で奇数月第4金曜日に開催している。利用者の状況や事故、行事を報告し、地域活動や豪雨対策などの意見や要望を情報交換し、運営に活かされる有意義な会議となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	サービスを提供する上での疑問や不明な点についてはその都度相談しアドバイスをいただいております。	市の担当者に運営での疑問点や成年後見人などについて助言を得て、運営に活かしている。必要な事故報告などを行っている。地域包括支援センターから利用者の受け入れについて相談されるなど協力連携している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所での研修会において身体拘束について、具体的な11の項目・3つの弊害について理解を深められるよう努めております。今後も定期的に研修会を行っていく予定です。	身体拘束や虐待について事例を含めて研修した。外出傾向を把握し、気持ちに寄り添い同行、近所の美容室に協力を依頼している。安全対策のためにエレベーターにセンサーを設置した。転倒防止のために家族の同意を得て、センサーや毛布に鈴をつけている方もいる。職員はセンサー受信機を携帯し、即対応出来るように備えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所での研修会において高齢者虐待の主な種類の理解、また、介護者のストレスが虐待につながる大きな影響ということへの理解を深められるよう努めております。今後も定期的に研修会を行っていく予定です。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている方もおりますので研修やミーティングを通じ、学ぶ機会を持つようにし、理解に努めております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては主に管理者が行っており、不安点・疑問点も解消でき、ご理解いただけるよう努めております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様からは日々の会話の中から要望を吸い上げられるように、ご家族へは面会時に様子を伝え、同様に要望を反映できるよう努めております。	利用者の要望などは日々の暮らしの中で把握し職員間で共有している。家族の意見や要望は訪問時に聞き記録し、ミーティングで確認・検討している。事例として食事について意見があり検討し、家族に説明を行った。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からは日々の業務を行う中で気づいた意見・提案を聞き、取り入れるよう努めております。また、今後は管理者より職員の個人面談も取り入れていきたいと思っております。	毎月の全体会議やリーダー会議、日常的に意見や要望が出せる機会がある。業務内容や手順などについて意見が出され、実践し改善につなげた。勤務シフトや希望休を聞き、働きやすい環境作りに配慮している。外部研修に参加する機会を確保しケアの質の向上に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職務資格等級により職層や職責、手当等を明示し、目標を持って働ける整備を行っております。又、誕生日は休みにし、希望休にも応え、メリハリを持って仕事に打ち込める環境作りに取り組んでおります。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入社員研修、スキルアップ研修を行い知識・技術のスキルアップに取り組んでおります。又、外部の研修にも参加する機会を設け、職員の育成に努めております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の他事業所が開催する勉強会に参加し、情報交換を行い、サービスの質の向上に取り組んでおります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には実態調査を行い、ご本人や家族、関係各所からの情報提供をしていただいております。また、ご本人の普段の生活の中からの言葉から不安や要望をくみ取れるよう努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談受付時にご家族の困りごと・不安を聞き、事業所での対応と一緒に検討しております。また、サービス担当者会議や面会時の会話を通して要望を聞き、良い関係づくりに努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	それまで利用していた医療機関や担当のケアマネジャーからの意見を聞き入れ、必要な支援を理解しサービスにつなげるよう努めております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族同様の接し方で、その人らしさを引き出せるよう努めております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会時にはご利用者様の日々の様子を伝え、協力してご本人を支えられるよう努めております。また、今後はホームの様子等の広報誌を定期的に送付できればと考えております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでの関係が途切れないよう、ご本人が今まで関わってきた医療機関、理髪店、地域の商店を把握し、ご家族と協力するとともに、外出支援等の支援を行っております。	家族と連携し医療機関や理・美容院、地域のスーパーやコンビニに出掛けられるように支援している。同法人のデイサービスの知人と行事の際に交流を深めている方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご本人のペースに合わせておりますが、お茶の時間などはフロアで職員や他利用者様と一緒に過ごす時間も確保できるよう配慮しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了の際は今後もお困りごとがありましたらいつでも相談できる旨をお伝えしております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各職員がご利用者様とのコミュニケーションを通して意向に沿えるよう支援しております。また、毎月のミーティングで個人のケアカンファレンスを行っております。	日頃の会話から思いや意向を把握、また、家族や地域包括から情報を得て記録、全体会議で情報共有する。利用者のこだわりや好みに配慮し、一人ひとりの思いに添って、安心して暮らせるように支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族、関係機関の方から情報を頂き、把握に努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	居室担当者が中心となり、現状の把握に努めており、また、ミーティング・申し送り等で情報の共有を図っております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	居室担当者を中心にご利用者のケアについて聞き取り、計画作成担当が立てた計画を担当者会議にてご本人・ご家族の意向に沿っているか確認しております。	生活に対する意向欄に本人が話した言葉を記録し、家族、医師、職員の意見を取り入れ介護計画を作成している。3ヶ月毎、または必要に応じてモニタリング、ケアカンファレンスを行い、本人、家族、関係者の参加でサービス担当者会議を開催し、介護計画を見直し、説明、同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は個別に記録しており、職員はそれを見ることで情報の共有をしております。また、申し送りやミーティング時などにケアについて話し合い、計画作成につなげられるよう努めております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現状ご本人に必要なサービスは何なのか、心身の変化や状況に合わせた柔軟なサービスが提供できるよう努めております。カンファレンス等で定期的に見直しを行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の商店や施設を利用できるよう努めており、町内会の行事にはなるべく参加していきたいと思っております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にはご本人が今までかかっていた主治医に継続して診ていただけることを優先に考えます。その際に、ご家族と通院・往診について相談してこちらでできる支援について説明させていただいております。	希望するかかりつけ医や専門医の受診には、基本的に家族が付添うが職員が対応することもある。家族にバイタル表と状態の記録を渡し、受診結果を共有している。月2回、訪問診療や訪問歯科を利用している方もいる。法人の看護師から意見や助言を得ているが、今後、訪問看護ステーションとの連携を検討している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人の他事業所に看護師がおりますので、意見・指示を仰いでおります。また、ご利用者様の体調の変化の際は、主治医と連絡をとっております。今後は訪問看護との連携も考えております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくり	入退院の際は、医療機関と密に連絡をとり、ご利用者様にとって不安なくスムーズに対処できるよう努めております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現時点ではそういったケースはありませんが、終末期のあり方についてはご家族と深く話し合い、事業所としてどう支援できるかをご理解していただけるよう努めたいと思っております。	臨床宗教師を講師に迎え「人生の終わり方について」と題して職員研修を行った。重度化や終末期に向けた対応指針については、法人の指針を参考に今後作成する予定である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルがありそれに沿うように対応いたしますが、訓練は一部職員しかできておらず今後は全職員が参加できるよう訓練・研修を行えるようにしていきたいと思っております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練は年2回行っております。運営推進会議にて災害時の協力について話し合っておりますが、今後はもっと具体的な協力体制を築けるようにしていきたいと思っております。	3月に消防署員や警備会社職員立会いで避難訓練を行った。10月に警備会社職員の立会いで利用者と一緒に関夜間想定訓練を行い、声掛けや煙対策について確認した。利用者を避難誘導した目印として枕などを扉の前に置いた。発電機やラジオ、3日分の非常食を準備している。喫煙場所を管理している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修で、高齢者の尊厳・プライバシーの保護について行っております。また、日々の話し合いの中でも職員に対する指導を心掛けております。	利用者の尊厳を尊重すること、利用者の立場に立って行動すること、人生の先輩であるという気持ちで接することなどを念頭に、声掛けなどについて演習を含め研修した。呼び名は家族に確認している。排泄介助はさりげなく対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中でのコミュニケーションでご利用者の意向を聞き取り、できる限り自己決定できるように努めております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度のホームでの日程は決めておりますが、利用者本位・ご本人のペースに合わせてられるよう食事・入浴等の時間を確認しながら行っております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴後の衣服や外出時の衣服はご利用者様と一緒に選べるよう支援しております。ご自身で選択が難しい方には本人本位に沿うように心がけております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	各ご利用者様の残存能力に合わせた食事準備・片づけの支援を行っております。食器拭きやテーブル拭き等の役割を持つことで共同生活をする一員という意識を持っていただけるよう支援しております。	敷地内の法人調理室で作られた食事が届けられる。利用者は出来る範囲で盛りつけや後片付けを行い、和やかに食事し、職員は食事介助をしている。行事食やおやつ作りの際に、利用者と一緒に買い物に行き、調理することもある。法人は職員がケアに専念し、休憩時間を確保できるように配慮し、食事を利用者と共にしていない。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量は記録に記入し、ご本人に合わせた摂取量を確保できるよう支援しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けをしております。介助が必要な方には職員がつき、ご本人の能力に合わせた支援を行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の訴えがない利用者様に対しては定時での声掛け誘導を行っております。排泄は記録に記入し、排泄パターンをケアに活かせるよう努めております。	排泄チェックを行い、排泄パターンなどを把握し、一人ひとりに合わせた排泄を支援している。夜間にポータブルトイレを利用する方もいる。便秘予防に朝の体操やサイクルマシンの活用、乳製品やセンナ茶を取り入れている。医師や薬剤師にも相談している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ご利用者様には体操等を通して運動の促しを行っております。また、飲食物も便秘に効果のあるものをご利用者様の体調に配慮しながら摂取していただいております。主治医・ご家族とも相談し、便秘薬の処方をしていただくこともあります。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間は夜間を除く、午前・午後となっております。入浴時にはご利用者様の意向に沿えるようご本人と話しながら決めております。	週2～3回、午前・午後に入浴支援を行っている。車椅子や状態に応じて、機械浴や職員が2人に対応している。安眠できるように足浴を行う場合もある。入浴したがる場合には、時間をおいたり、声掛けを工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間についてはご利用者様のペースに合わせております。また、水分補給するなどして休息しやすいよう支援しております。主治医と相談して眠剤処方していただくこともあります。昼寝については昼夜逆転にならぬよう声掛け支援しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報のファイルを作成し、各ご利用者ごとに閉じてあります。その情報を見ながら服薬のセットをし、症状の変化等が見られたら主治医に連絡を取り指示を仰いでおります。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人やご家族から情報を聞き、園芸や手芸等ご本人が今まで行ってきた趣味などを取り入れるようにしております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天気の良い日など外出の機会はなるべく作るよう努めております。また、ご本人の希望に沿えるよう普段の会話から聞き取れるような会話支援をしております。	日常的には、ごみ出しや散歩、調理室への容器返却などが外気浴の機会となっている。市民センター祭りで、踊りや民謡・合唱、小学生の吹奏楽などを楽しんだ。花見、笹かま館の七夕、近所の神社や障がい者施設のバザーなどに出掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者様の中にはご自身で一部の金銭管理をされている方もおります。ご本人と買い物に行くとき、自分の財布から払うことで満足感・安心感につながると理解しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在は電話等を利用されている方はおりません。利用希望があれば支援させていただきます。手紙も同様にご利用者様の意向に沿う支援をしております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアにはご利用者様とレクで一緒に作った制作物(季節に応じた)を貼り、廊下にはコルクボードがあり、散歩や行事で撮影した写真を飾り思い出を共有できるよう考慮しております。	共用空間は広く、明るく、一角に多目的カウンターがある。ベランダには洗濯物が干されていた。ソファで寛ぐ方、新聞を読む方などがおり、思い思いに過ごせるように配慮している。利用者と一緒に作った季節の飾り(クリスマス)や行事の写真などが壁面に貼られている。手作りカレンダーがあり、トイレ表示は大きく見やすい。加湿付空気清浄機が設置され、湿・温度が適切に管理されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用フロアには仕切り等はありませんが、テーブル席とは別にソファを用意し、くつろげる空間になるよう配慮しております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にはご家族に自宅で使っていた家具や思い出の写真等お持ちいただくことで安心して生活できる空間作りのご相談をさせていただきます。	居室にはベッド、洗面台、収納庫、ナースコールが設置されている。整理ダンス、テレビ、仏壇、家族の写真などを持込み、安心して暮らせるように配慮している。転倒防止のためにセンサーを設置している方もおり、動線に配慮している。出来る利用者と一緒に掃除を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレには看板を設置し、居室にはご自身にわかりやすいよう表札を付け、お一人でもできる(わかる)よう工夫しております。		